

朝田小学校



2月23日(日)、朝田小学校の閉校記念式典が行われ、141年の歴史に幕を下ろしました。

4月からは田原小学校と統合し、大田小学校として新たな歴史を刻みます。

朝田小学校は、昭和13年に波多方小学校と俣水小学校が統合して誕生しました。波多方小学校の開校は明治6年、俣水小学校は明治7年まで遡ります。

これまで5千人以上が卒業していった小学校の閉校式には、かつて教鞭をふるった先生や卒業生の皆さんが駆けつけ、懐かしい思い出を振り返りました。



小野本良二さん

「朝田はやっぱり寂しいですね。毎朝うちのお店の前を通って登校する子ども達の声が聞こえていました。それもなくなりません。」
 大田小学校は旧大田中学校を改装したもので、4月から児童達はバス通学になります。



水之江和成さん

「他にも運動会など、朝田小にとって最後となる行事にも保護者や地域の皆さんがよく関わってくれました。どの行事も、楽しく作り上げて、楽しく終わって、終わってみたら寂しさを感じますね。」
 最後の年は『自信と誇りをはぐくむ1年に!!』をめぐめて、より一層地域との関わりを深めてきました。

「直で仲がいいですね。朝田小の子ども達も、地域の大人もみんなそうです。」
 地域の雰囲気や印象的だったと話してくれたのは、朝田小学校最後の校長先生を務めた水之江和成さんです。

「希望を持って進学・進級してくれればと思います。田原の子ども達と、仲良く新しい学校を作ってほしいです。」
 小学校記念碑の基礎部分には、最後の児童数と同じ19個の石が据えられました。力強く育ってほしいとの願いがこめられています。

明治6年に開校した田原小学校は、昭和31年から平成20年まで53回にわたり開催された大分県合奏合唱大会の全てに出場した、音楽と縁の深い学校です。



宮川スミ子さん

「大田小に行ってもいろいろなことにチャレンジして頑張ってたね。またおばちゃんとも遊びに来て！」

「他にも、昔の校舎の長い廊下、化庁や県の事業に積極的に申し込みました。その甲斐あって、プロスポーツ選手も小学校に来てくれて。彼らとの出会いは、これからは子ども達の心の支えになってくれると思います。」

閉校閉園式と併せて行われた県庁吹奏楽団の演奏会も、県の事業によるものです。



早田初美さん

「最後まで輝く学校にしたいという思いで過ごした3年間でした。保護者や地域の皆様の惜しみないご協力に心から感謝しています。」
 来月号では、大田小学校の様子を取材します。

3月2日(日)、田原小学校・幼稚園の閉校閉園記念式典が行われました。小学校は141年間、幼稚園は49年間に渡り地域に親しまれてきました。

この春から、田原小学校は朝田小学校と統合し大田小学校に、田原幼稚園は大田こども園に移ります。



田原小学校

そんな田原小学校を明治末期から3代にわたって見守ってきたのが、校舎の真正面に店を構える『宮川商店』。文房具などの雑貨を取り扱っています。

「最後の年は、『全校児童が一輪車に乗れるようになる』ことを目標にしました。努力すれば達成できるということを実感してほしかったんです。」
 運動会での発表を目指して練習に励み、全員が一輪車に乗れるようになったのが本番の4日前。その時の感動は忘れられないとのこと。

「時代の流れとはいえ閉校は寂しいですね。小学校の真前で、子ども達や先生との付き合いが多かったですから。」
 最後に、子ども達に一言。